

## 教育委員会会議の議事録（平成30年7月臨時会）

◆ 日 時 平成30年7月12日（木）午後2時から午後4時31分まで

◆ 場 所 本庁舎 第1委員会室

◆ 出 席 者

教 育 長	佐 々 木 洋	出席
委員・教育長職務代理者	吉 田 利 弘	出席
委 員	齋 藤 道 子	出席
委 員	加 藤 道 代	欠席
委 員	花 輪 公 雄	出席
委 員	中 村 尚 子	出席
委 員	里 村 正 治	出席

◆ 会議の概要

1 開 会 午後2時

2 議事録署名委員の指名 花 輪 委 員

3 協 議 事 項

（1）平成31年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

教育指導課長 平成30年度においては、平成31年度に小学校で使用する「特別の教科 道徳」以外の教科書を新たに採択する。平成29年度検定において新たな図書の申請がなかったため、基本的には前回の平成25年度検定合格図書の中から採択を行うこととなる。そのため、文部科学省からは、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成26年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられるとの通知を受けている。

また、平成30年度は、学習指導要領改訂後の教育課程実施に伴う教科書の検定年度となっていることから、平成31年度においては、学習指導要領改訂後の教育

課程の実施に伴う教科書を新たに採択するとの通知も受けている。

したがって、今年度採択する教科書は、平成 31 年度のみ使用する教科書となる。

なお、去る 6 月 28 日に、平成 30 年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会から、採択対象となる教科用図書、「小学校で使用する教科用図書」と「特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書」について、教育委員会に対し報告が行われた。審議に当たり、協議会報告書や調査研究委員会報告書などの内容も参考にさせていただきよう願います。

大まかなスケジュールとしては、本日は小学校用教科書の社会、地図、算数、理科、生活、書写の教科書についての協議、7 月 17 日に小学校用教科書の国語、音楽、図工、家庭、保健と特別支援教育関係の教科書についての協議をお願いする。

継続審議があった場合は、7 月 19 日にご審議をお願いする。そして 7 月 27 日の定例教育委員会において採択をお願いする。

教 育 長

本日は、今年度の採択対象となる 6 種類の小学校の教科書について協議を行う。協議の適正さ、公正さを確保する観点から、委員の皆様にも率直なご意見を述べていただくため、本日の協議のご発言においては、お手元の対応表に従い、発行者名ではなく A 者、B 者と呼ぶようお願いしたいと思う。

なお、A、B は任意の記号を振ったものであり、発行者番号順ではないので、ご了承ください。

したがって、本日使用する資料だが、発行者名が記載されている別紙資料 1 から 9 については、採択手続終了まで非公開としている。そこで、傍聴においでの皆様へは別紙資料を配付しないこととしている。8 月 31 日以降に当該資料を市政情報センターにおいて閲覧できるようにするので、ご了承ください。

それでは、改めて事務局から配付資料について説明願う。

教育指導課長

本日配付している資料について説明する。

資料 1 は、宮城県教育委員会から示された「教科書の採択に係る基本方針」である。

資料 2 は、同じく宮城県教育委員会から示された「平成 31 年度使用教科用図書（小学校）採択基準」である。これは県内各採択地区において、適切な採択を確保するための援助として、宮城県教育委員会が作成したものである。

資料 3 は、同じく宮城県教育委員会から示された「平成 31 年度使用学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書（一般図書）」の採択基準である。

資料 4 は、6 月の臨時教育委員会で議決いただいた「平成 31 年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択方針」である。

資料 5 は、小学校教科書発行者一覧である。

続いて、別紙資料について説明する。

別紙資料 1 は、「平成 31 年度仙台市立義務教育諸学校で使用する教科用図書の採択対象となる教科用図書について（報告）【小学校】」である。本資料は、有識者、保護者代表、校長から構成された仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会で、小学校で使用する教科書の特長をまとめたものである。教科書目録の発行者掲載順に記載している。

別紙資料 2 は、「平成 31 年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料 1 【小学校】」である。本資料は、市立学校長及び教頭で構成された調査

研究委員が、小学校各教科の教科書の調査研究を行い、各教科の目標と仙台市の採択の観点に沿って各教科書の特長を示した報告書である。

別紙資料3は、「平成31年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料2【小学校】」である。本資料は、小学校の教諭で構成された専門委員が、各教科の教科書の調査研究を行い、報告書1と2の構成でまとめている。

報告書1は、県の採択基準に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究、報告書2は、学習指導要領に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究となっており、各教科書の特長を観点に沿って網羅的に示した報告書である。

別紙資料4は、「平成31年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料3【特別支援学校及び特別支援学級】」である。

別紙資料5は、「平成31年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料4【特別支援学校及び特別支援学級】」である。

別紙資料6は、「平成30年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会（小学校）議事録」である。

別紙資料7は、宮城県教育委員会から示された「平成31年度使用教科用図書採択選定資料 小学校用」である。

資料1の宮城県教育委員会の採択基準の4つのカテゴリについて、教科ごとに全発行者の特長をまとめたものである。

別紙資料8は、宮城県教育委員会「平成31年度使用教科用図書（小学校）選定資料 社会科（別冊）」である。

別紙資料9は、平成30年4月に文部科学省から示された「小学校用教科書目録（平成31年度使用）」である。

配付資料は以上だが、その他、参考資料として「平成30年度教科書展示会の市民アンケート」「平成31年度使用教科用図書（小学校）の採択希望に関する資料」及び「要望書」がある。

さらに、小学校各教科の教科書と編集趣意書も机上に用意しているので、併せてご参照いただきたい。

教 育 長 協議に入る前にこれからの進め方についてお諮りする。

まず、事務局から、学習指導要領における教科の目標や協議会の報告等について説明を受けた後、協議を行うことにしたいと考えている。

今年度は、先ほど事務局から説明があったとおり、平成29年度検定において新たな図書の申請がなかったため、平成25年度検定合格図書の中から採択を行うこととなるため、文部科学省からは「4年間の使用実績を踏まえ、前回採択における調査研究の内容等を活用することも考えられる」との通知を受けているとの説明があった。

協議においては、4年間の使用実績を踏まえ、前回採択における採択理由などを参考にしながら協議を進めていきたいと考えている。

本日の議論を踏まえ、27日の定例教育委員会で確認の上、採択に係る議決を行いたいと思う。

以上の進め方について、これにご異議はないか。

(異議なし)

教 育 長 これから2日間、このような進め方で協議を行いたいと思う。長時間の審議となるが、よろしく願います。

### 【社会】

教 育 長 社会について協議を行う。  
事務局から、学習指導要領の目標と協議会報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いします。

指 導 主 事 小学校「社会」について説明する。  
学習指導要領における小学校「社会」の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。

協議会において取りまとめた小学校「社会」の全発行者の特長は、別紙資料1の社会のページにお示ししている。

主な特長として、A者は、課題追究の道筋が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」で明確になっている。単元のまとめでは、話し合い活動や言語活動を意図的に配置している。

B者は、問題解決的な学習の流れが示されているとともに、「いかす」のコーナーで社会に参画することを積極的に取り上げている。

C者は、学ぶ上で重要な言葉を「キーワード」として説明し、基礎・基本の定着が図られるように工夫されている。

D者は、3・4年生の上巻に問題解決に必要な知識を「つかむ」「調べる」「まとめる」「深める」の段階ごとに詳しく説明がされており、入門期にふさわしい内容となっている。

平成26年度に採択され、現在、各学校で使用している教科書はB者である。平成26年度の採択理由は、「問題解決的な学習の流れを段階的に示し、問題意識を持って学習が進められるように単元構成に工夫がされている。特に全ての小単元に振り返る場面が設定され、思考力、判断力、表現力等の能力の向上が期待できる」「各学年で、日本各地を事例地としてバランスよく取り上げている。その中で、3・4年生上巻で、仙台市が事例地として取り上げられており、社会科を初めて学ぶ児童にとっては親しみやすく、スムーズに学習に入ることができる。」「『いかす』の段階では、具体的な活動例を取り上げており、社会参画につながるように意図されている。」ことである。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「学習段階が教科書紙面に構造的に示されているため、学習意欲を高めながら問題解決的な学習を楽しく進めることができた」という点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明に質問等があれば願います。

齋 藤 委 員 B者を見ると、泉パークタウンとか、仙台市のことがよく書かれていて、まるで仙台でつくったのかと思うような教科書のように思う。子どもたちが非常に近い気持ちを持って勉強に取り組めると思う。

先ほど最後におっしゃった、問題解決的な学習の流れが示されというあたりをもう少し具体的に教えていただきたい。

- 吉田委員 私も、社会科に限らず問題解決をする学習というのは、理解とか知識の習得にも大切であるし、学び方を学ぶという意味でも大切だと思う。調査研究委員会でも取り上げており、齋藤委員が言った問題解決的学習ということで使用実績にも紙面に構造的に示されているという言葉がある。構造的に示されているというのは具体的にどういうことなのかを教えてください。
- 指導主事 B者の教科書について、協議会または調査研究委員会で話題になった点としては、B者の教科書には初めのページ、単元の始まりのところに「つかむ」が配置されており、これからどのような学習をしていくか明示されている。「つかむ」の次の段階では「調べる」、最後の段階では「まとめる」という段階が示されており、その枠組みの中に、そのページで何を学習するのかが明示されており、これが子どもたちにとって分かりやすいということが話題になっていた。
- 花輪委員 B者の採択理由の3番目、それから報告等によると、社会に参画することを非常に積極的に取り上げていると記載がある。学習過程に取り上げて、「いかす」を学習過程に位置付けているという表現があったが、例えばということで、3年生から始まって、社会参画という言葉で捉えられるようなことを提示していることを具体的に教えてください。
- 指導主事 例えば、3・4年の下の教科書の52ページにあるとおり、子どもたちが自分たちのまちについて学習してきた後に「いかす」というページがあり、自分たちのまちの安全マップをつくらうということで、今まで学習してきたことをもとに、自分たちのまちに対して積極的に関わろうという意識が高められるように配置されているということかと思う。
- 花輪委員 これは他者の教科書に比べ、非常に積極的にB者は社会参画を取り上げているという理解でよろしいか。
- 指導主事 ほかの発行者にも「いかす」に似たページはあるが、B者においてはカラー見開きでページ数も多く取り上げられていることから協議会でこのような意見が出たと認識している。
- 中村委員 C者について教えてください。協議会のところに「ICTにも配慮されている」とあるが、どのような配慮がなされているのか。
- 指導主事 C者の5年下の教科書の「情報をつくり、伝える」というページ、その次に「情報化社会を生きる」という単元のページを見た委員がこのようなコメントを残していると記憶している。
- 中村委員 B者について、別紙資料2に「中学校での円滑な学習が展開できるように工夫されている」とあるが、どのような工夫がされているか教えてください。
- 指導主事 6年下の教科書の政治に関するところで国際社会に係るページが充実しているということで、中学校に入るとそうした学習がさらに膨らむので、そのようなページを指していると記憶している。
- 吉田委員 先ほどとの関連だが、問題解決的な学習ということで、調査研究委員会からも「4年間の実績の中で、学習意欲を高めながら問題解決的な学習を楽しく進めることができた」というコメントがあるが、実際、学校訪問などで複数回、現場の様子を見たと思う。先ほど教えていただいたように、「調べる」「まとめる」という見出しがあって非常に分かりやすく構成されているが、学校現場では実際に見出し、小見出しなど使ってどのように有効な活用がなされていたかについて教えてください。

たい。

指導主事 学校にたびたびお邪魔して社会の学習を参観させていただく機会がある。そうすると、「つかむ」「調べる」「まとめる」という段階の中に書いてある、その時間の学習課題というところが明確になっていて、社会が得意な先生ばかりではないので、一般の先生方はこの見出しを手がかりにして学習問題を設定し、子どもたちに調べる方向性を示して授業を進められるという利点がある。そういった活用をすることで、子どもたちがこの時間に何を学習すればいいのか、この単元のゴールは何なのかということが先生方にとっても分かりやすく、また、子どもたちにも分かりやすいという印象を受けている。

中村委員 A者について質問する。協議会の報告に「つながる学び」と記載があるが、これは具体的にどのようなものか教えていただきたい。

指導主事 これはA者の趣意書に編集の基本方針として示されている言葉である。趣意書には、「問いや気付きが次の学びにつながる。確かな学びにつながる。児童と社会、児童の未来へつながる」という点が示されており、この点が協議会で話題になって記述されたものと記憶している。

吉田委員 B者について、防災関係でかなりの量を取り上げられている点も特長の一つになっていると思う。3・4年生、それから5年生に災害の備えということで載っているが、仙台市が全国に先駆けてつくった独自の防災教育副読本との関連や、学習状況、実際どのように学校現場で使っているのかを分かれば教えていただきたい。

指導主事 6年下に「震災復興の願いを実現する政治」という単元があるが、このページを学習する際、または、ほかの学年でも震災に関わる学習をする際に、この教科書だけではなく、本市で編集している防災副読本を併用しながら学習に取り組んでいるとの報告を受けている。社会で防災に対して学習をした後に、学級活動などで防災副読本を活用して学びを広げるといった報告も受けている。

齋藤委員 A、B、C、D、全者とも色が余りに強くないように、ユニバーサルデザインに非常に気を付けているという印象を受けたが、何か各者特長的なことで違いがあるかどうか教えていただきたい。

指導主事 各者の趣意書にもカラーユニバーサルデザインに配慮しているという記載があり、どの発行者も配慮されているということだが、協議会の話題の中で、C者はグラフや地図などに斜線やドットがついていて、さらに見やすく工夫されているというご意見があった。

中村委員 D者について質問する。協議会の報告に、「言語活動が充実するように配慮されている」とあったが、具体的にはどのような形で配慮されているのか教えていただきたい。

指導主事 D者については、各単元の最後に「深める」というコーナーが設けてあり、挿絵や吹き出しを使ったり、児童の具体的な活動の例を紹介したりしており、言語活動を生かした学習が展開できるような配慮がなされている。その点が協議会で話題になったということである。

教育長 皆様方からさまざまなご質問があったが、今後、採択の方向での話し合いをしたいと思う。皆さんから採択に関してご意見等があればお願いします。

吉田委員 B者の使用の仕方については良好な状況という回答であったが、この教科書を使って学校現場として支障があった等の事例があれば教えていただきたい。

教育指導課長 調査研究委員会の報告書、専門委員の報告書、学校からの報告では、特に問題があるといった指摘はなかった。

教 育 長 現在使用している教科書について、各委員会、協議会の報告、あるいは学校現場での意見で、特に問題となる点は見当たらないという答弁があったが、この点について皆さん、何かご意見はあるか。

齋 藤 委 員 現場の声として、現在使っている教科書が非常に使いやすいとお聞きしたところから考えると、私はこのままB者を使用したほうがいいと思う。

教 育 長 ほかの委員の皆さんはどうか。このまま現在の教科書でいいのではないかという齋藤委員のご発言と、皆さん方からそれに対する賛同の意が示されたところであり、平成 26 年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえると、総合的な観点から現在のB者ということによろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、社会についてはご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。

#### 【地図】

教 育 長 地図について協議を行う。  
事務局から、学習指導要領の内容の取扱い、協議報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いします。

指 導 主 事 小学校「地図」において、説明する。  
地図は、学習指導要領における小学校「社会」の内容の取扱いにおいて、児童の発達の段階を考慮し、社会的事象を公正に判断できるようにするとともに、個々の児童に社会的な見方や考え方が養われるようにすること。また各学年において地図や統計資料などを効果的に活用し、我が国の都道府県の名称と位置を身に付けることができるように工夫して指導することである。

協議会において取りまとめた小学校「地図」の全発行者の特長は、別紙資料1の地図のページにお示ししている。

主な特長としてA者は、「東北地方が折り込みで一望でき、中心地の仙台について詳しく掲載されており、東北地方の指導がしやすい。また、2冊の地図帳を組み合わせると日本全土を概観できる構成や、見開き世界地図の東西を重ねて地図上につなげることで球体であることを実感することができるなどの工夫があり、地図に対する関心を高めることに適している」ということである。

B者は、「A4判の大きさになっているため、地図全体が大きく見やすくなっている。活字の大きさも適切である」ということである。

平成26年度に採択され、現在、各学校で使用している教科書はA者である。

平成26年度の採択理由は、「情報が精選され、コンパクトにまとめられたり、文字情報が分かりやすく配置されたりしており、児童が調べ学習をする際に使いやすい」「各地方の地図にイラストやデータなどが掲載されており、それぞれの地方の特色を調べられるように工夫されている」「防災について取り上げ、防災マップづくりを通して、災害発生時に自分の命を守るために何をするのか考えられるよう

に配慮されている」「色や記号により、果樹園や田、畑などの土地利用の様子が示され、産業の学習で効果的に使えるように配慮されている」である。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として「巻頭に地図帳の使い方が詳しく掲載されていること、児童が地図帳を使って主体的に学んでいくために大変効果的であった」という点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明に対して質問等があればお願いします。

中 村 委 員 B者の協議会の説明に「冒頭に興味を引くような問い」とあるが、具体的にはどのような問いなのか。

指 導 主 事 キャラクターなどの吹き出し部分が話題になっていた。

吉 田 委 員 社会科の授業に使う地図帳という関係から、社会科の学習内容に合わせて豊富な資料が載っているということも大切だと思うが、やはり地図帳である限り、子どもたちが地形を捉えやすいというのが第一だと思う。そういう点で、サイズがA者とB者では違っており、A4サイズのほうが一般的には大きく描かれているので見やすいと思う。しかし実際に採択されたのはA者で、B者に比べて小さいことでの支障はなかったのかお聞きしたい。

指 導 主 事 A者の見やすさとしては、土地や海洋の様子を適切に色分けし、色彩表現を工夫していると調査研究委員会で話題になっており、サイズのことは話題になっていなかった。

吉 田 委 員 私もサイズというよりは、色彩面の高度差というのがA者のほうが捉えやすいと認識している。

里 村 委 員 社会科の教科書の発行者と地図の発行者が違うが、そのことで支障があるのかどうかお尋ねしたい。

指 導 主 事 調査研究委員会や専門委員の話題には上らなかった。

教 育 長 特に支障がないという受け止めでよろしいか。

指 導 主 事 そのように受け止めている。

齋 藤 委 員 A者が防災に関して子どもたちの目を引く箇所があり、このあたりは現在もいろいろな災害が起こっている上で、地図に防災マップやその他災害を防ぐ工夫などを載せている点が非常に優れていると思う。

吉 田 委 員 社会の学習が、身近な地域としての仙台市、宮城県、そして東北地方、最終的には全国へと進められていくが、専門委員会の報告書の中でも、仙台市の拡大図が掲載されているという文言があるが何ページにあるのか教えていただきたい。

指 導 主 事 44ページから46ページに東北地方の折り込みが一望できる場所があり、中心地の仙台が別枠にある。

花 輪 委 員 地図は、社会科に限らずいろいろな教科との関連で使う機会があると思う。A者、B者、どちらも非常に優れた教科書だと思うが、特に社会科の関係だけではなく、ほかの教科との関係でも使いやすいという点はあるか。先ほどの防災マップの作成というのはなるほどそうだと思うが、そのほかの例として何かあるか。

指 導 主 事 調査研究委員会では、歴史学習や地形、自然など、さまざまな主題図が相互に関連付けて発展的な学習ができると話題になっていたが、特に他教科と関連しているといった話題は上らなかった。

中 村 委 員 両者とも巻末にたくさんの統計資料が載っている。見てみると本当にいろいろな情報があり、見ていて飽きないくらい載っているが、こういうものが子どもたちの

発展的な学習にどのように役立つのか教えていただきたい。

指導主事 A者の76ページの索引や統計資料は、そちらを気候や絵地図、そして相互に関連付け、69ページや82ページの主題図とともに使うと効果的であると調査研究委員会で話題になっていた。

教育長 そろそろ絞り込みに入りたいと思うが、絞り込みに当たり、委員の皆さん、ご意見があればお願いします。

吉田委員 サイズで子どもたちが見にくい、分かりにくいということが格段なければ、地形の彩色の仕方も子どもたちにとってつかみやすいということなので、現行のままでいいと思っている。

教育長 ほかにご意見はないか。平成26年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえて、総合的な観点からA者ということによろしいか。

(異議なし)

教育長 それでは、地図については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。

#### 【算数】

教育長 算数について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標、協議報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いします。

指導主事 小学校「算数」について説明する。

学習指導要領における小学校「算数」の目標は、「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しを持ち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」である。

協議会において取りまとめた小学校「算数」の全発行者の特長は、別紙資料1、算数のページにお示ししている。

主な特長として、A者は、言語活動の場面や身に付けさせたい言葉などが巻頭や巻末に配置されており、学習のねらいに迫る言語活動を促す工夫がなされている。

B者は、巻頭に学習の進め方を示し、問題解決型の授業を進めるのに役立つ工夫がなされている。

C者は、前後の学習の系統性が目次に示されており、学習のつながりを意識できるよう工夫されている。また、巻末の補充問題が用意されており、児童の自主的な学習を促すような答えの掲載の仕方を工夫している。

D者は、問題解決的な学習の手順や解決のための視点が示されており、思考力を育むための配慮がなされている。

E者は、各学年1冊になっているので、既習事項の確認や振り返りが可能である。

最後に、F者は、学習した内容を生活の中で生かしたり、読解力や表現力を養ったりする工夫がなされている。

平成26年度に採用され、現在、各学校で使用している教科書はC者である。平

成 26 年度の採択理由は、「社会的な事象を数学的に解釈することによって、算数が実生活に役立つことを意識できるように工夫されている」「目次に、前後の学習内容を明示したり、中学校数学への導入として数学に興味を持たせるような内容を配置したりしており、算数・数学の内容の系統性を重視し、知識・技能の確実な定着を図るとともに、学習意欲を高めることができるように工夫されている」「ノートづくりの例が発達の段階に応じて丁寧に示されており、知識・技能の確実な定着や思考力、表現力の向上に期待できるものとなっている」「巻末の補充問題が用意されており、児童の自主的な学習を促すような答えの掲載の仕方を工夫している」である。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として「個人差に応じた指導をするため、補充問題の設定や学び直しができる構成が効果的であった」という点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明に対して質問等あればお願いします。

吉 田 委 員 今回の事務局からの説明の中で、算数が実生活に役立つことを意識できるように工夫されているとあったが、この逆にもあるのかなど。1年生あたりが教科としての算数を学習して数の概念をつかむために、身近な生活の様子から算数に入っていくというようなことがあると思うが、そのような工夫は、現段階、採択されているC者に見られたでしょうか。併せて、低学年はよく操作活動をするが、操作活動がスムーズにできるような編集の工夫があるかお聞きしたい。

指 導 主 事 専門委員会の報告の中には、教科書の巻末にカードや図形があり、操作活動が充実するように工夫されているという話題が上がっている。

花 輪 委 員 現在使っているC者について質問がある。

調査研究委員会の下の専門委員報告書に、「式や図から友達の考えを読み合い、伝え合う学習が例示されており、言語活動の充実が図られている」とある。算数の教科で、結果として言語活動の充実を図ることができたというのは目からウロコである。これは考えを伝えようというところがあり、その工夫でこういう評価が出てきたのだと思うが、他者との関係でここはC者がかなりユニークな設定をしているという理解でよろしいか。

指 導 主 事 他者においても、教科書に記述式で書かせる箇所があり、言語活動が充実するように工夫されているところがある。C者については、「考えよう」「伝えよう」のところで、その一つの問題として、通常授業の中でそのまま扱えるというようなこともあり、調査研究委員会の中で話題として上がっていた。

里 村 委 員 算数については、ほかの科目に比べて非常に苦手意識を持つ子どもが多い科目だと聞いている。そういう意味で、いい教科書であればあるほど、負担になる子どもが増える可能性がある。その辺、今使われている教科書、あるいはほかの候補の教科書も含めて、委員会等でそういうことで意見が出たのかどうかお聞きしたい。

指 導 主 事 協議会報告書に、つまずきの多い単元については低学年から意識して学習内容を盛り込んでいるという報告がある。

中 村 委 員 C者について質問する。協議会報告書に「中学校の学習への意欲を促す工夫がある」とあるが、どのような工夫がなされているのか、具体的に教えていただきたい。

指 導 主 事 協議会報告にもあるとおり、6年生の算数卒業旅行というのがある。これまでの整理と中学校の学習意欲を促す工夫があるということで話題に上がっていた。

吉田委員 先ほどの里村委員の意見と関係するが、仙台市の標準学力検査の結果を見たときに、大きな課題があり、応用力の表現の部分が目標値より低い状況を継続している。その原因を探れば、「いくつ分」とか「1あたり量」など、割合の概念がなかなか掴めずに、つまずきが起こってしまい、それが結果的に尾を引いてしまうということになる。現在、採用しているC者の専門委員の報告書に数量や図形についての知識・理解の習得を図るために適しているかという項目の中で、考え方を理解しやすいように配慮されているという表記がある。他者にはこのような記載はないが、どのようにここが取り上げられ、工夫された紙面編集になっているのか、具体的に教えていただきたい。

指導主事 協議会報告の中の配列に関するところに、「つまずきの多い単元については、低学年から意識して学習内容を盛り込んでいる」という報告がある。この部分が今ご指摘のあった割合のところであり、それが専門委員の報告の中では「1つ分」とか「いくつ分」、「全部の数」を系統立てて使うことにより、倍や割合の考え方を理解しやすいように配慮されているところにつながっていく部分である。

齋藤委員 私も、子どもたちが最初に算数に触れるときに「数って楽しいな」ということを思ってもらいたい。どの発行者も1年生の教科書が、子どもたちがスムーズに数に親しんでいけるような配慮がなされている。特にC者については余り分厚くないあたりが1年生にとっていいと思う。

ちょっと気になったところで、例えばA者だと、数学の歴史について興味を高める、B者では歴史的な単位や人物についての紹介があるが、数学の歴史と関連付けとはどのような内容なのか教えていただきたい。

指導主事 A者の例でお話しさせていただくと、A者では5年生で「素数の見つけ方」を取り上げている。その中で「エラトステネスのふるい」ということで、2,200年前から素数をどうやって見つけていったかという記載がある。

中村委員 B者についてお尋ねする。協議会の報告に「キャリア教育との関連が図られている」とあるが、どのようなところでキャリア教育と算数が結び付いているのか教えていただきたい。

指導主事 調査研究委員会で、「5年生・6年生の教科書に社会人からのメッセージを掲載している」、「将来について目を向けることができるように配慮されている」、と話合われていた。

齋藤委員 F者について、数学的な考え方を深める工夫とはどのようなことか教えていただきたい。

指導主事 調査研究委員会で、「算数でよく使う類推、帰納、演繹などの考え方を示し、数学的な考え方を身に付けることができるように配慮されている」と話題に上がった。学習指導要領に、類似の場面から推測するという類推的な考え、幾つかの具体例を調べて共通性を見つけるという帰納的な考え、ある前提をもとにして説明していくという演繹的な考えとあり、算数科の中では、帰納的に考えたり、演繹的に考えたりするなどの場面が数多く現れると示されている。

教育長 そろそろ絞り込みに移りたいと思う。どの図書がよいか意見等あれば願います。

齋藤委員 現在、使われているC者は、先ほどもお話があったように、6年生の算数卒業旅行など、ギャップがなく中学生に向かっていけるような工夫がされているということで、私はC者をこのまま使用することがよいと思う。

教 育 長 齋藤委員からこのようなご意見が出たが、皆さん、いかがか。C者というご意見をいただいたので、それでは平成 26 年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえ、総合的な観点からC者ということによろしいか。

(異議なし)

教 育 長 それでは、算数については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。  
ここで一旦休憩とし、再開は3時30分とする。

(休憩 午後3時15分～午後3時30分)

教 育 長 再開する。

#### 【理科】

教 育 長 次に、理科について協議を行う。  
事務局から、学習指導要領の目標、協議報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いします。

指 導 主 事 小学校「理科」について説明する。  
学習指導要領における小学校「理科」の目標は、「自然に親しみ、見通しを持って観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」ことである。

協議会において取りまとめた小学校「理科」の全発行者の特長は、別紙資料1、理科のページにお示ししている。

主な特長としては、まずA者は、巻頭に「達人からのメッセージ」が示され、主体的な学習への第一歩となるように工夫されている。

B者は、資料が興味・関心を高め、発展的な学習が行われるよう配慮されている。

C者は、別冊の「わくわく理科プラス」は、自主的な学びを引き出すことに役立てられている。

D者は、「りかのたまてばこ」を特設するなど、学習活動が分かりやすく表現されており、学習効果が期待できる。

E者は、問題からまとめまでが線でつながっており、継続性を持って学習しやすい。また、まとめが次のページになっているので、考えを深められる。

F者は、問題解決の流れを分かりやすく脇に書いてあり、学習を進めやすいように工夫されている。

平成26年度に採択され、現在、各学校で使用している教科書はE者である。

平成26年度の採択理由は、「問題解決の考え方を定着させるためのしっかりとした構成が全学年で共通して統一されているので、学習の流れが分かりやすい」「巻末に記録の取り方やノートの記事の仕方、理科室の使い方など、授業の際に必要な情報がいつでも取り出せるように工夫されている」「写真や図が見やすく、児童が興味や疑問を持ったり、関心を高めたりすることができるように工夫されている」

である。

調査研究委員会からは4年間の使用実績として、「問題解決の流れが分かりやすく表示されており、また、写真や絵など比較しやすい配置となっているので、見通しを持った取組みや考察を促す一助となっている」が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明に質問があればお願いします。

中 村 委 員 E者について質問する。協議会資料に、「問題からまとめまでが線でつながっている」となっており、先ほど説明されたが、もう少し具体的に教えていただきたい。

指 導 主 事 理科では、問題解決の過程が重視されており、6年生、5年生、4年生の教科書の巻頭2ページ、3ページにおいて課題解決に向けての学習の流れが提示されている。また、教科書の中で、問題解決の流れが、解決する問題からまとめまで一本のラインでつないで示されており、その流れが分かりやすくなっていると調査研究委員会、専門委員会で意見が出された。

吉 田 委 員 私もそのように感じた。実際教科書を見ても、それぞれの分野とか学年によって言葉の違いはあるが、まず、理科的思考を高めるために予想するとか仮説を持つとか、それに基づいて実験するとか観察するとか、最終的にまとめ、そして考察するという一連の流れが教科書の中で分かりやすくなっている。

実際に学校現場でこの教科書を使って、どのような反応だったのか、分かれば教えていただきたい。

指 導 主 事 専門委員、調査研究委員それぞれの委員から、実際に現場で使う際には、ラインが示されているため、理科が余り得意でない先生でも、指導がしやすいという声が上がっていた。次に何を行うかが教科書に示されているので、子どもたちにとっても分かりやすいという報告があった。

齋 藤 委 員 C者についてお伺いする。6者のうちで別冊があるのはC者だけかと思うが、別冊があることのよさについて専門委員会で話が出されたかどうか。

もう一つは、イラストや写真が見やすい、そして順序性があり比較しやすいというあたりをもう少し詳しく教えていただければと思う。

指 導 主 事 協議会報告書に、「別冊の『わくわく理科プラス』は自主的な学びを引き出すことに役立てられる」という報告がある。また、調査研究委員会においても、「別冊の『導入』と『まとめ』で基礎・基本の定着を図っている。また、自分の言葉で整理し、考えが深められるよう配慮されている」という報告がされている。

イラストについては、調査研究委員会報告書で「イラストや写真などに順序性があり比較しやすい。また、カラーユニバーサルデザインによる個人差への配慮がなされている」という報告がされている。

花 輪 委 員 小学校の理科なので、実験、観察だけではないと思うが、できるだけ自分で手を動かして、自然の仕組みのおもしろさ、生物のおもしろさ等々を感じてほしいと思っている。

今使っているE者が、実験あるいは観察等で考える過程を非常に分かりやすく導いてくれるということだが、何か他者と違った工夫や、実験をやらせる単元が多いとか、そういう特長はあるのか。

指 導 主 事 専門委員会報告書において、組織と配列に関することであるが、「基礎となる単元を先に置き、既習事項を意識した学習ができるよう配慮されている。また、観察、実験の方法や器具の使い方を教科書の巻末にまとめ、繰り返し確認することができ

るよう配慮されている」という話が出されている。

里 村 委 員 実験に臨むときの子どもへの指導の方向性についてお聞きしたい。実験をするときに、ある程度答えが出るような導きの中で実験をするようにしているのか、答えはさて置き、まずはやってみるとなっているのか。教育効果が随分違うと思うが、どちらを目指しているのか。その観点から、現在使われている教科書の評価があれば教えていただきたい。

2点目は、算数もそうだと思うが、理科も、特に小学校から中学校へのつながりがとても大事だ。仙台の中学校では同じE者の教科書が使われているのかどうか教えていただきたい。それから、前回の教科書選定に当たって、つながりをどの程度配慮したのかも教えていただきたい。

指 導 主 事 1点目は、大きく言うと単元やねらいとするところで変わってくるが、E者は専門委員会において、「問題解決の過程を重視し、児童が見通しを持って観察、実験に取り組み、一人一人が基礎的知識・技能を習得できるよう配慮されている」と報告がある。子どもたちがこのような結果になるのではないかと見通しを持って実験に取り組みさせていくところもあるが、子どもたちが見通しを持って実験に取り組んだ場合においても、結果としては意図したものが得られなかった場合に、それに対して、なぜそれがそのような結果になったのかということ再度考え直させ、捉え直させるという場面もある。

2点目は小・中学校のつながりということだが、中学校においても小学校で使われているE者と同じ者の教科書が使われている。

3点目はどのような配慮がされているかということであるが、中学校の教科書においては、小学校の内容をベースにしてより深く学ぶような構成がされている。また、各者アプローチの仕方は違うが、小学校で学んだことを引き出すような提示や写真があり、小学校からの知識を引き出すような工夫がされている。

里 村 委 員 結果としてE者の教科書を小学校も中学校も使っているということだが、小学校と中学校の教科書の発行者を変えるということは、思い切った理由がないとできないことなのか。前回、教科書を選定するときにどんな議論があったのか。また、皆さんのお考えについて、来年の採択のこともあるのでお聞きしたい。

教 育 長 小学校と中学校で変わっているのもあれば、今のお話のように、同じものもあるというのが現実だと思うが、そのあたりの説明を願う。

教育指導課長 それぞれ小学校、中学校、同じ地域ではあるが、児童・生徒の実態も違うということもある。また、あくまでも採択の観点に沿っての議論となる。小学校がこの発行者であるから中学校もこの発行者でという議論はこれまではされていない。採択の観点と仙台市の子どもたちの実態に沿って、どれが最適かという議論で教科書を採択してきた。

中 村 委 員 B者について、協議会の報告書の中にも、「地域の素材を生かすことで」という表記があるが、これは仙台そのものなのか、例えば宮城県だったり東北だったりということがあるのか。詳しく教えていただきたい。

指 導 主 事 調査研究委員会、専門委員会において、「地域素材や地域の特色を重んじる配慮が見られる」と意見が出されている。B者においては、「地域の特色ある自然や身近な現象を写真や挿絵などで示し、児童が興味・関心を持って学習に取り組むことができるようにされている」という意見が出されている。各地域でのそれぞれ特色

があるところを出しているのので、特にここが仙台である、宮城県であるという議論は出ていなかった。

齋藤委員 協議会報告の中でA者だけ「実験器具の使い方等がまとめて示され、分かりやすくなっている」とあるが、特に優れた点について教えていただきたい。

指導主事 A者の特長としては、前学年までに使用した実験器具の使い方について巻末にまとめて示されている。授業で実際に使う場面において、そのページを使って前学年までの学習内容を振り返ることで指導がしやすくなっていると、協議会で意見が出されていた。例えば、6年生の指導をする中で、顕微鏡の使い方が前の学年で指導しているのであれば、6年生の教科書には詳しい内容について書いていないが、巻末を見ることで詳しい使い方が確認できるということである。

教育長 そろそろ絞り込みに入りたいと思う。絞り込みに当たり、委員の皆様方からご意見をいただきたい。

花輪委員 調査研究委員会の報告書、専門委員会の報告書でもかなりポジティブに捉えられていると感じるが、指導主事の先生は現場をよく知っていると思うので、総括するとどういう考え方でE者の教科書を使っているのか。特記すべきことがあればお聞かせ願いたい。

指導主事 先ほど使用実績でも述べさせていただいたように、調査研究委員会では、「問題解決の流れが分かりやすく表示されており、また、写真や絵など比較しやすい配置となっているので、見通しを持った取り組みや考察を促す一助となっている」と評価をしている。

併せて、調査研究委員会専門委員からも、「問題解決の段階とそれに応じた方法など、学習の進め方が分かりやすく、児童が見通しを持って主体的に学習に取り組むための一助とすることができた」という評価がされている。それぞれ共通しているところは、問題解決の流れが分かりやすく表示されているという点と、子どもたちにとって見通しを持って主体的に学習に取り組むための一助になっているということが挙げられている。

教育長 ほかに意見があればお願いします。

吉田委員 花輪委員の問いに対しての回答から、おおよそ良好ということであるし、使用上の問題がなければ、現行のままでもいいと思っている。

教育長 現行というご意見をいただいたが、それではお諮りする。平成26年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえ、総合的な観点から、理科についてはE者ということではよろしいか

(異議なし)

教育長 それでは、理科については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。

#### 【生活】

教育長 生活について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の目標、協議報告、併せて前回の採択理由と4年間の実績等について説明をお願いします。

指 導 主 事 小学校「生活」について説明する。

学習指導要領における小学校「生活」の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ということである。

協議会において取りまとめた小学校「生活」の全発行者の特長は、別紙資料1、生活のページにお示ししている。

主な特長として、A者は、透明シートのモノクロ写真等、児童の興味・関心を引く工夫がされている。

B者は、地域の文化、自然を中心とした内容で、感性が育つよう配慮されている。

C者は、別冊の「生活たんけんブック」は、実際の活動で児童が意欲を持って使いたいやすいつくりとなっている。

D者は、「すたあと ぶっく」が、スタートカリキュラムの実施に当たり活用しやすい内容になっている。

E者は、児童のつぶやきや教師の支援、手立てが具体的に掲載され、児童の気付きが質的に高まるように配慮されている。

F者は、各活動を大切にされたカード例が大きく配置され、支援の言葉も付記されている。

G者は、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」と、各単元の活動が3段階で構成されており、児童の思考の流れに合った活動が期待できる。

H者は、写真や児童のつぶやきが児童の五感を生かした活動を引き出し、豊かな学習ができるように配慮されている。

平成26年度に採用され、現在、各学校で使用している教科書はD者である。

平成26年度の採択理由は、「分かりやすい言葉で書かれており、児童が主体的に学ぶことが期待できる。また、1年間で学ぶことが四季の歩みと組み合わせで示されており、学ぶことと実生活がつながるように配慮されている」「巻頭の『すたあと ぶっく』が、スタートカリキュラムの指導を行う上で参考となる活動例を紹介しており、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行が期待できる。また、保護者への説明もあり、丁寧である」「1・2年生が使用するという視点では、紙面がすっきりしており、大変使いやすい。「まちたんけん」の方法、メモのとり方、発表までの流れ、学習カードの例が詳しくまとめられ、またたくさん示されている」である。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「全体の構成がダイナミックで、表情豊かな写真や挿絵を豊富に掲載しており、児童の知的好奇心を高め、自主的・自発的な活動を促すことができた」という点が挙げられている。

教 育 長 ただいまの説明に質問等あればお願いします。

齋 藤 委 員 私は生活については、基本である命の大切さとか、それに関連する命の教育を一番重要視するべきだと思っている。そのあたりに関して、各者の特長を教えてください。

指 導 主 事 それぞれ協議会、専門委員会、調査研究委員会で話題になったことを話させてください。

A者、これは協議会で話題になった。数ページにわたって命の教育が充実してい

る。

B者、これは専門委員会で話題になった。命をともにし、慈しみのうちに生きる児童の姿が示されている。

C者、専門委員会で話題になった。防災教育において児童が身を守るすべを身に付けられるよう配慮している。

D者、調査研究委員会で話題になった。防災や安全の内容について、注意マークが付けられている。

E者、専門委員会で話題になった。生命尊重と自然愛護の心情が芽生えるように配慮されている。

F者、専門委員会で話題になった。防災の意識付けのために、さまざまな場面を想定した資料が示されている。

G者、専門委員会で話題になった。安全の意識が低学年の児童に定着するよう工夫されている。

H者、専門委員会で話題になった。さまざまな教材や活動例を示し、生命を大切にする心が育つように配慮されている。

以上のような意見が出されている。

中 村 委 員 F者について、協議会の説明に家庭との連携を図ったとあるが、具体的にはどのようなことなのか教えていただきたい。

指 導 主 事 人との関わりが重視され、友達や家族、地域の人々など、さまざまな人と活動できるように配慮されていて、全ての単元末に「おうちでチャレンジ」という、家族に伝え、学習を振り返るコーナーが設けられており、ここが話題になった。

吉 田 委 員 専門委員の報告書の中で、現行のD者の「組織と配列に関すること」の項目の中で、「活動を通して気付きの質が高まるような構成になっている」とある。D者の教科書のどの辺がそのような言葉に当てはまるのか、教えていただきたい。

指 導 主 事 専門委員の議論で話題になったことをお伝えする。「子どもたちが自覚をしていないところから自覚をさせるような配慮がされている。それから、一つ一つの気付いたことを比較したり、分類したり、関連付けたりするところがどの単元からも読み取れる。最後に、さまざまな対象と関わる中で、自分自身の成長を気付かせる。その点で見ていくと、現行の教科書が非常に優れている」という意見が出ていた。

中 村 委 員 C者について質問する。協議会のほうでも、各単元が4段階で構成されていると出ているが、具体的に教えていただきたい。

指 導 主 事 調査研究委員会で話し合われた内容である。C者の導入は「わくわく」、主な活動は「いきいき」、交流活動は「つたえあおう」、広げて深めるところは「ちゃれんじ」と、教科書の上のほうにマークがある。それをばらばらとめくると、今どの段階をやっているのかが分かるように4段階の紙面構成にしている。そして学習を進めながら、単元を通して活動が深められるように構成が工夫されているということであった。

花 輪 委 員 1年生、2年生に対して、社会生活を営む上でのことをガイドしている教科だと思ふ。いろいろなことをやってみようということで提案している内容がほとんどだと思ふ。やればきりがいいような気もするが、その辺は上手に範囲を決めて提案している教科書だという理解でよろしいか。

指 導 主 事 現行のものに関しては、そういう意味で言うと使いやすいように作り込まれてい

るという話題が調査研究委員会に出ていた。今、いろいろお話があったところだが、ある意味作り込まれているので、学校独自の創意工夫をすとか、身近な地域の素晴らしい素材に目を向けるとか、教科書を一生懸命やっていると、若い先生にとっても使いやすく、まだ経験の年数の浅い先生からすると、教科書に沿って季節に応じたもので学びを進めていくと非常に使いやすい教科書であるということが調査研究委員会で話題になったところである。

教 育 長       そろそろ絞り込みに移りたいと思う。絞り込みに当たって皆様方からご意見をお願いしたい。

齋 藤 委 員       生活科として現在使われているD者が、ほかの教科に結び付けやすくなっているという意見が多いと受け止めていいのか。確認させていただきたい。

指 導 主 事       協議会において、3年生への接続、他教科、理科・社会等の接続を考えても内容が工夫されているという話題が上がっていた。

齋 藤 委 員       現在そういう意見がたくさん出ているということであれば、現行のままのD者で進めていくべきかと思う。

教 育 長       ありがとうございます。D者というご意見があった。ほかにご意見はないか。それでは、平成26年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえ、総合的な観点からD者でということによろしいか。

(異議なし)

それでは、生活については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。

#### 【書写】

教 育 長       書写について協議を行う。

事務局から、学習指導要領の内容の取り扱い、協議報告、併せて前回の採択理由と4年間の使用実績等について説明をお願いする。

指 導 主 事       小学校「書写」について説明する。

学習指導要領における小学校「書写」の内容の取扱いは、「硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること」である。

協議会において取りまとめた小学校「書写」の全発行者の特長は、別紙資料1の書写のページにお示ししている。

主な特長として、A者は、手本の脇にワンポイントアドバイスが示されており、書く際の注意点となっている。

B者は、「考える」「確かめる」「生かす」の3つのステップを踏みながら、段階的にかつ自主的に学習できるように工夫されている。

C者は、各学年巻末に資料が配置されており、書写での学習が生活場面で生かせるように工夫されている。

D者は、書き方の学習において、その場で書き込めるスペースが多くある。

E者は、目的、目指すことが明確にされており、児童自らが課題に気付き、学習する際に目標を立てやすい。

F者は、他教科で活用できるようにノート例が示してあり、書写で学習したことを生活の中に生かす態度が育まれやすい。

平成 26 年度に採択され、現在使用している教科書はC者である

平成 26 年度の採択理由は、「1年生の導入において、分かりやすい図解や説明により学習へ入りやすいよう工夫されている」「発達の段階を考慮した学習内容が段階的・系統的に配列され、学習要素を無理なく習得できるよう工夫されている」「文字について興味・関心を高める資料や、学んだことを生かす例示が豊富であり、国語科と関連付けた内容で学習の広がりを目指し、書写で学んだことの実生活への広がりが図られるよう配慮されている」である。

調査研究委員会からは、4年間の使用実績として、「使用されている文字の点画が正確で整っており、手本としてふさわしく、筆圧や穂先の動きが、写真や言葉で詳しく表現されているため、基本点画について、児童に理解させるために効果的であった」と挙げられている。

教 育 長 　　ただいまの説明に質問はないか。願います。

中 村 委 員 　　F者についてご質問する。硬筆との関連に配慮した配列とあるが、もう少し具体的に教えていただきたい。

指 導 主 事 　　協議会で出された話である。毛筆教材を学習した後に関連する硬筆教材を設定しており、毛筆の学習を硬筆に生かしながら学習を進められるという話であった。

吉 田 委 員 　　調査研究委員会、調査研究専門委員会の文言の中でも、いわゆる文字の点画が正確でという表記がある。正確な点画については、二、三年前の国語審議会のほうで特に字形について緩められた。今の教科書は審議会前の作成なので、学校に対するフォローというか、実際にどのようになさっているのか、教えていただきたい。

指 導 主 事 　　今お話しいただいたように、新学習指導要領では、漢字の指導について概形を求めるものであり、とめ、はね、はらいなどが厳密でなければならないものではないということが示される。そのため、例えば書くスピードの中で、はねられなかったもの、あるいはとめられずにはねてしまったものなどを誤りとはしないという方向になってくる。漢字としてははねるのが正しいなど、あくまでも正しい漢字は教えるが、日常生活で書いていく中でそこを厳密に求めてはいかないという指導をする方向になっている。

学校に対するフォローとしては、学校訪問における授業づくりや、先生方の研修会などにおいてプリントを配付するなど、さまざまな場面で周知する努力をしている。7月に行われる教育課程説明会でも補助プリントを出す予定である。

花 輪 委 員 　　仙台市としては書写の時間ということで、どのぐらい割り当てるように指導しているのか教えていただきたい。

指 導 主 事 　　指導要領に 30 時間程度と示されているので、そのとおり実施していただくようにしている。ただ、毎週 1 時間ではなく、書き初めのときにまとめ取りをするなどの工夫をしていただいている。

花 輪 委 員 　　理解した。練習の時間をとらなければいけないということで、毎週 1 回やったらどうい進み方をするのか、少し心配になっていた。

齋 藤 委 員 　　A者についてお伺いする。協議会報告に「身近な例が多い」とあるが、これは日

常生活での活用場面がよく出されているということで理解すればよいのか。

指導主事      こちらの文言は、協議会、調査研究委員会、専門委員会等の委員会で作された。例えば3年生であれば原稿用紙の書き方、4年生では手紙の書き方、5年生では横書きのます目ノートのまとめ方、6年生では話を聞き取ったときのメモの書き方など、日常生活に使える書き方を学習し、実際にやってみたいと思うような工夫がされている。

里村委員      毛筆に関してお聞きする。教科書を見ると各者とも指導要領に沿ってやっていると思うが、文字数などにばらつきがある。教科書を選ぶときに何を基準に判断すればよいのか。

併せて、例えば楷書と行書の扱いについても、教科書によって必ずしも整っていないが、その辺についてもお聞きしたい。

指導主事      学習指導要領にあるように、とめ、はね、はらい等の基本点画を学習できるようなことであれば、特に何文字でなければならぬといった決まりはなかったと思う。

楷書と行書については、小学校では楷書の学習をする。中学校に入り、行書を学習することになっている。

吉田委員      書写というと、国語の時間での扱いと思われる。したがって、国語の教科書との関連性が強いのだと思うが、採択している教科書の会社が違っていることで、支障などはなかったのか。

指導主事      専門委員会の中で、同じ教科書会社であればなおよかったかもしれないということ了指摘した委員はいたが、先ほどの話とも関わってくるが、基本的に学習すべき部分はどこの発行者のものを使っても同じなので、特に大きな支障はなかった。

吉田委員      例えば、教科書に掲載されている文例が書写ノートにないなど、具体のところでも支障はなかったか。

指導主事      ご指摘の点が話題になり、国語の教科書で学習したものが書写でも書ければいいという意見もあったが、国語の教科書を学習したときにノートに視写をさせることができるし、別の文章に出合える機会でもあるということで落ち着いた。

教育長      そろそろ絞り込みに入りたいと思う。絞り込みに当たり、皆さん方、お考えがあればお示ししていただきたい。

齋藤委員      文字を書くに当たって基本となるとめ、はね、はらいに関して、本当に各者ともいろいろな観点から非常に豊かに表現されていることを感じた。

現在使われているC者については、そのあたりがとても分かりやすいということを感じたので、このままC者でいいと思う。

教育長      C者という意見があったが、皆さん、ほかのご意見はないか。

ないようなので、それでは26年度の採択理由及びこれまでの使用実績を踏まえ、総合的な観点からC者ということでよろしいか。

(異議なし)

それでは、書写については、以上ご議論いただいた内容を採択理由として、事務局に整理してもらい、27日に最終的に決定する。

以上で平成31年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書、小学校社会、地図、算数、理科、生活、書写の採択についての協議を終了する。

次回7月17日は、本日協議を行わなかった小学校教科書と、特別支援教育に関する教科書の採択についての協議を行う。

4 閉 会 午後4時31分